

2023年3月15日
JX 石油開発株式会社

各 位

日本海洋掘削株式会社の株式取得について

当社（社長：中原 俊也）は、本日、アスパラントグループ株式会社（社長：中村 彰利）の関連ファンドから、日本海洋掘削株式会社（以下「日本海洋掘削」）の株式を譲受けることを決定しましたので、お知らせいたします。

本年4月下旬頃の株式譲受け完了を目指して、法令上の許認可取得の手続きを進めて参ります。株式譲受け完了をもって日本海洋掘削は当社の連結子会社となりますが、当社は、同社の企業価値向上と安定的・継続的な成長に向けて、パートナーとして同社と共に歩んでいく所存です。

日本海洋掘削は、海洋掘削事業を営む我が国で唯一の企業であり、高度な専門知識・能力を持った人材とその技術力は世界的に大変高い評価を得ています。当社といたしましても、これまでの協業を通じ同社の人材および技術力、特に掘削操業能力、安全管理能力につきまして、大きく信頼を寄せているところであります。この度の株式取得により、我が国にとっても貴重な財産といえる同社を当社グループに迎えることになり、石油・天然ガス開発事業における当社の競争力を一層強化できるものと考えております。

また、当社が属するE N E O Sグループは、2040年長期ビジョンにおいて低炭素・循環型社会への貢献を掲げており、2040年度までに自社排出分のカーボンニュートラル実現に向けて取り組むことを公表しております。当該取り組みにおいて、当社が米国 Petra Nova CCUS Project（注1）等を通じて知見・技術を蓄積してきた CCS（注2）/CCUS（注3）は、カーボンニュートラル達成のための有力な手段と位置付けられております。CCS/CCUS のバリューチェーンにおいては、CO₂を地下に圧入・貯留するための井戸の掘削が重要な技術要素であるところ、日本海洋掘削が加わることで、E N E O Sグループの提供する CCS/CCUS バリューチェーンは一層強化され、我が国のカーボンニュートラル計画の達成に貢献していく体制・能力を高められるものと考えております。

（注1）Petra Nova CCUS Project: 米国ヒューストン近郊において、火力発電所の燃焼排ガスから年間約160万トンのCO₂を分離・回収し、油田への圧入により原油の増産を図る世界でも有数の大規模CCUSプロジェクト。2022年9月に子会社化。

（注2）CCS: Carbon dioxide Capture and Storage の略。排出されるCO₂を回収し、地下に圧入・貯留する技術。

（注3）CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage の略。排出されるCO₂を回収・貯留することに加え、新たな商品やエネルギー生成のために利用する技術。

以 上